芸　　術

1　学習指導と評価の改善・充実

学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等をバランスよく育てることを重視している。指導に当たっては、学習意欲を向上させ、生徒の主体的な活動を生かしながら、目標の確実な実現を目指す指導が求められる。このバランスのとれた学力を育成するためには、学習評価における各観点ごとの評価をバランスよく実施し、指導と評価の一体化を図ることが大切である。

芸術科では、学習指導要領の「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の各領域の指導事項と、観点別学習状況の評価の観点とが対応する構造となっているため、各領域の指導事項をしっかりと捉え、指導のねらいを明確にしていけば、学習評価の視点も明確になる。指導のねらいと、学習評価の視点の双方を明確にし、指導と評価の一体化を図ることにより、生徒の学習活動の過程における実現状況を的確に把握するとともに、生徒の指導方法や教材、学習環境の設定などが適切であるかを明らかにし、学習指導の改善・充実を図ることが大切である。

2　「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

［音楽］

(1) 音楽における学習指導上の課題

音楽科においては、単に技術を身に付けたり、楽譜の指示どおりに表現したりするのではなく、思いや意図を持って演奏したり、創作したり、味わって鑑賞したりすることのできる能力を身に付けさせることが課題となっている。そのため、授業においては、音楽を形づくっている様々な要素を「知覚」し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を「感受」するとともに、「知覚」と「感受」の双方を関わらせながら、どんな表現方法が適切か、いろいろと試しながら、自分なりの表現意図を持つことや、楽曲や演奏を解釈したり（音楽的思考）、それらの価値を考えたり（音楽的判断）して、音楽のよさや美しさを創造的に味わって聴くことがきる指導の工夫・改善が必要である。また、思考・判断したことを書いたり、発表し合ったりするなどの言語活動(表現)を取り入れながら、学習を効果的に進めることも大切である。(「知覚・感受」については平成22年度手引、「言語活動」については平成23年度手引を参照)

(2) 課題解決に向けた効果的な評価の在り方

前述の課題を解決するためには、表現領域では「音楽表現の創意工夫」、鑑賞領域では、「鑑賞の能力」の評価の観点における評価規準を明確にして、生徒の音楽的思考や音楽的判断の状況を適切に評価することが重要である。また、評価手法としては、次に例示したようなワークシートを効果的に活用するほか、生徒の書いた批評文や自分の表現意図等を発表し合うなどの言語活動の場面を通じて、個々の生徒の実現状況を的確に把握し、評価を行うとともに、指導の工夫や改善に生かしていくことが大切である。(「観点別学習状況の評価」については、平成24年度及び平成25年度手引を参照)

【音楽的思考や音楽的判断の状況を評価するためのワークシートと記入例（Ａ表現・歌唱の例）】

	音楽の特徴		歌詞の表す心情や情景
	音楽を形づくっている要素	感じ取った曲想、雰囲気	
前半部分	【声色】 ・暗く深い響き 【旋律】 ・どの旋律も高い音から下降し、音の動きが激しくない（少ない） 【強弱の変化】 ・ずっとＰのまま	・暗い雰囲気 ・テンションが低い感じ ・盛り上がろうとしても、盛り上がれない感じ	・恋人を失った悲しい気持ち ・あきらめたくてもあきらめられない苦しい気持ち
後半部分	【声色】 ・明るい響き ・歌詞の発音がはっきりとしている。 【旋律】 ・少しずつ音が高くなっていって、この曲の最高音がでてくる。 ・音が跳躍していて、幅が広いところがある。 【強弱の変化】 ・だんだんクレッシェンドしていて最高音でテヌートがついている。	・迷いのない感じ ・うきうきした感じ ・明るい感じ ・壮大な感じ ・だんだん盛り上がる	・出会いから、お互いの思いがだんだん高まっていく様子 ・２人で過ごした日々の様子と幸せな気持ち

【解説】
上記のワークシートは、歌唱の授業において、歌詞の内容を考えながら、教材曲を知覚・感受させるためのものである。最後に、それぞれの項目で関連する内容を線で結ばせることにより、知覚と感受の双方を関わらせて捉えさせることができる。このワークシートの記入状況から、生徒の音楽的思考の状況を評価することができる。

私は○○○（楽曲名）の前半部分を、**恋人を失った悲しく、苦しい**思いが聴いている人に伝わるように歌いたいと思います。そのために、**下降する旋律の雰囲気が出るよう、少しデクレッシェンドをつけて、柔らかく、深い声で歌うと言うこと**にポイントを置いて歌いたいと思います。

【解説】
上記のワークシートは、知覚・感受をした内容を基に、楽曲にふさわしい表現について考え、自分なりの思いや意図を持たせるためのもので、音楽的な判断の状況を評価することができる。

(3) 効果的な実践事例

次に、「Ａ表現(1)歌唱」において、作品についての「知覚」と「感受」を関連付け、どのように表現するのか具体的な思いや意図を明確にする学習活動を通して、音楽的思考や音楽的判断を高める授業の実践例を示す。

実践例：音楽Ⅰ【浜辺の情景を思い浮かべて】

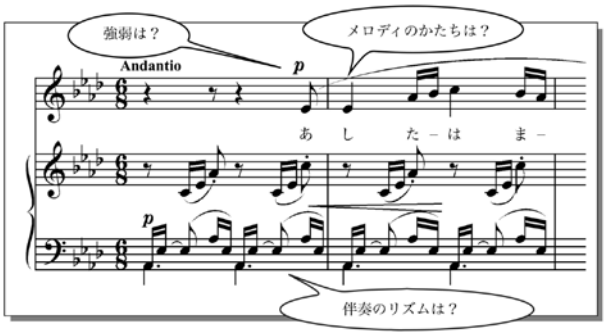
題材名	浜辺の情景を思い浮かべて（音楽Ⅰ）
教材	・浜辺の歌（作詞：林古渓　作曲：成田為三） ・椰子の実（作詞：島崎藤村　作曲：大中寅二）
題材の目標	作品の歌詞が表す情景や曲想に関心を持ち、旋律、強弱、リズムを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら音楽表現を創意工夫し、必要な技能を身に付けて歌う。
対応する学習指導要領の指導事項	Ａ表現（１）歌唱　アエ
共通事項に相当する事項	リズム、旋律、強弱

指導計画

題材全体の学習指導		評価の位置付け		
		○評価規準　【主な評価の対象】		
時	主な学習活動の展開（学習形態）	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
1	二つの作品を歌ったり、範唱を聴いたりし、歌詞の内容と曲想について感じ取ったことをワークシートにまとめる。	①学習する内容への関心 【ワークシート】		
2	二つの作品を比較し、音楽的要素の差異を知覚し、醸し出す雰囲気や表現の違いについて感受する。 リズム、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、歌詞の内容や曲想を感じ取って、どのように歌うか思いや意図をまとめる。		①作品比較による音楽的内容の知覚・感受 【ワークシート】 ②知覚感受に基づく創意工夫 【ワークシート】	
3	歌詞の内容や曲想を生かすことができるような発生、発声、呼吸法を用い、「椰子の実」を歌う。	②歌唱への主体的な取組 【発表】		①創造的な音楽表現の技能 【発表】

本時の学習活動と評価規準

●ねらい　　・学習活動	□評価規準
●「浜辺の歌」「椰子の実」を歌ったり聴いたりして、音楽を形づくっている要素（リズム、旋律、強弱）を知覚し、それらの働きを感受し、表現の創意工夫について考える。 ・二つの作品を、歌詞が示す情景や心情を思い浮かべながら歌う。 ・「浜辺の歌」について、海辺の情景を表現している音楽の要素について知覚する。	



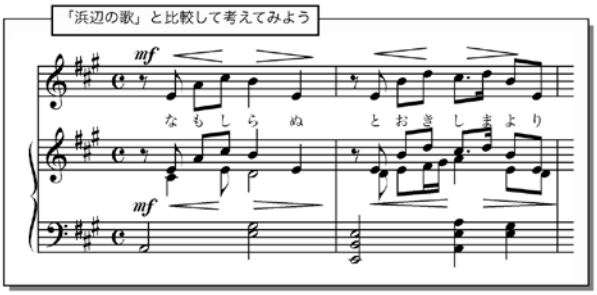
【課題１】２つの作品の一番の詞から浜辺の情景を表現している部分を３つ抜き出し、理由を考えよう。

	部分	理由
浜辺の歌	あした浜辺をさまよえば	浜辺という言葉が書いてあるから
	よする波みも	浜辺といえば海や波！
	貝の色も	浜辺には貝が落ちてある
椰子の実	流れ寄る	波に流れてくる椰子の実が想像できる
	岸を離れて	海の近くに住んでたっぽい
	波に幾月	ずっと波に流れているのかなと思う

前時の学習を思い出して

演奏や譜例の提示に動画や実物投影機を使用するなど、ＩＣＴの活用により効率化を図る。

・「椰子の実」において、浜辺の情景を表現している部分について思考し、歌詞の内容や音楽の要素に基づいて知覚・感受したことを整理する。



生徒の音楽的思考・判断を具体化するため、ワークシートを活用し、言語活動や目標の可視化に取り組む。

・整理した内容をワークシートにまとめ、全体交流し共有する。

これに気を付けて歌おう

【課題２】２つの作品を、次の要素について比較し、浜辺の情景を表現するためにどのように工夫するとよいか考えよう。

浜辺の歌	要素（ひとつ選択）	椰子の実
旋律の流れが波型になっていて それが波を表現できる	旋律・強弱・リズム	波型になっているのと 伴奏の和音とあっていることで流れがでるようになる
クレシェンドとデクレシェンドを繰りかえしていることで波の満ち引きを表している	旋律・強弱・リズム	一小節の中でクレシェンドとデクレシェンドがあることでテンポ良く波の様子を表現できる
16分音符×2、4分音符のフレーズが多く、伴奏のリズムと似ているのでアダージョのような表情になる	旋律・強弱・リズム	8分音符が多い中で付点8分音符－16分音符というリズムが出てくる事で波の少し不規則な動きが表現できる

創①二つの作品を比較し、音楽的要素の差異を知覚し、醸し出す雰囲気や表現の違いについて感受する。（ワークシート）

創②リズム、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、歌詞の内容や曲想を感じ取って、どのように歌うか思いや意図をワークシートにまとめる。（ワークシート）

・創造的な表現とするための技能について考察し、具体的にどのように表現するのか考え歌う。

創造的な表現の前提となる思いや意図を評価の対象とし、さらに他の生徒の意見考にさせるなど、次時につながる学習となるよう、ＰＤＣＡサイクルを意識した活動を設定する。

［美術・工芸］

(1) 美術・工芸における学習指導上の課題

美術・工芸においては、知識や技術の習得に偏ることなく、創造することの楽しさを感じ、思考・判断し、表現する造形的な創造活動の基礎的な能力を育むことが課題である。そのため、授業においては、作品のよさや美しさを鑑賞する喜びを味わうようにするとともに、感じ取る力や思考する力を一層豊かに育てるために、自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識をもって批評したりするなどの鑑賞の指導が必要である。

(2) 課題解決に向けた効果的な評価の在り方

前述の課題を解決するには、表現領域では「発想や構想の能力」、鑑賞領域では「鑑賞の能力」の評価の観点における評価規準を明確に示し、ワークシートなどを活用して、生徒の思考過程や工夫したことなどを的確に把握し、評価することが求められる。

例えば、次に例示したように、「発想・構想の段階」や「鑑賞」の授業において、考えたことを文章にしたり、発表し合ったりするなどの言語活動を行うことにより、生徒実現状況を把握し、適切に評価することが大切である。

こうした授業を通して、生徒は自分の考えを整理したり、他の考え方を取り入れたりしながら構想を練り直すなど、学習の深化が期待できるとともに、十分な深まりが見られない生徒に対する指導や助言につなげることができるなど、評価を指導の改善に生かすことができる。

(3) 効果的な実践事例

次に、美術の「表現Ａ(2)デザイン」において、話し合いや発表し合う場面を積極的に取り入れ、ワークシートを活用して、生徒の思考力・判断力・表現力を育む授業の実践例を示す。

実践例：美術Ⅱ【プロジェクト・デザイニング】

⑴題材の目標

提示された共通テーマに沿って、グループで協議しながら課題や問題点を発見し、改善策を案出した上で、パネルに創造的に表現し、プレゼンテーション（提案）を行うとともに、他のグループの提案から発想や構想、表現の工夫などを感じ取り味わう。

⑵題材の評価規準及び学習活動に即した評価規準

①題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表現　表現することに関心を持ち主体的に主題を生成して構想を練ったり目的や計画を基に表現したりしようとしている。 鑑賞　他のグループの提案の多様な表現に関心を持ち、主体的に提案のよさを感じ取り理解を深めようとしている。	「おたる・かわる・つながる」というテーマを基に、感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、表現形式の特性などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。	意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を工夫して、目的や計画を基に表現している。	他のグループの提案のよさ、発想や意図,表現の工夫などを感じ取り理解を深めている。

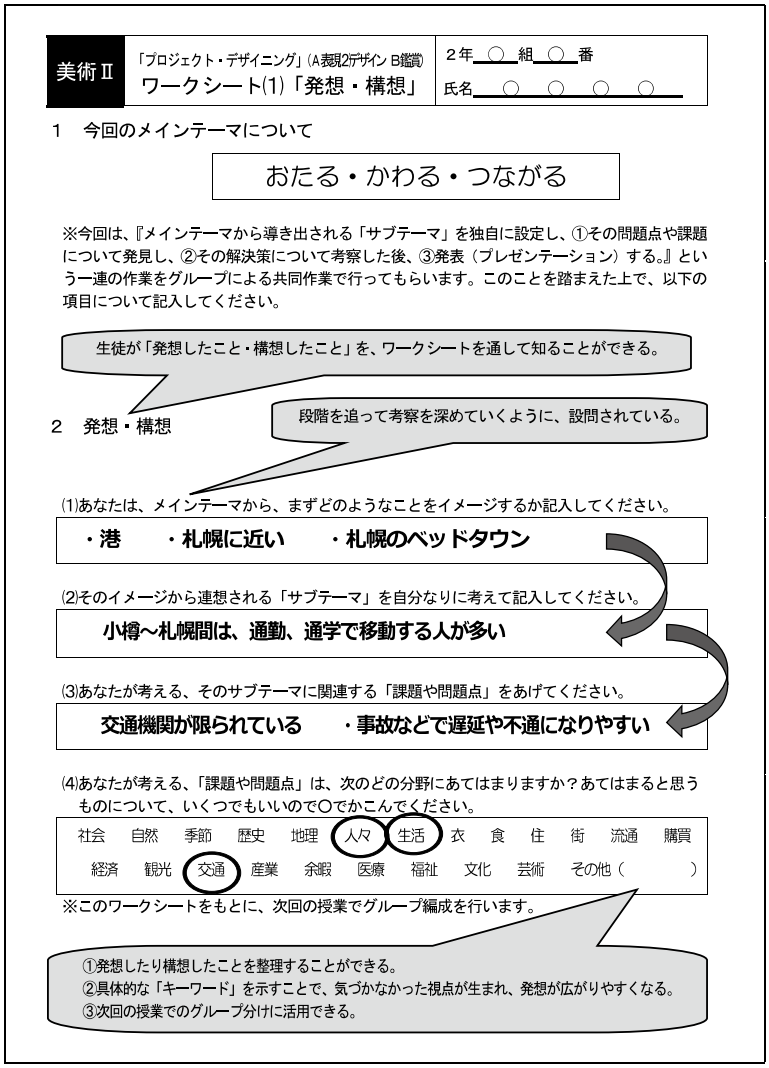
②学習活動に即した評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表現　関①　表現することに関心を持ち、主体的に主題を生成して創意工夫して構想を練ろうとしている。 表現　関②　目的や計画を基に技法や材料,用具の特性や効果を主体的に生かし、表現方法を創意工夫しながら主題を追求しようとしている。 鑑賞　関③　他のグループの提案のよさや意図と表現の工夫などに関心を持ち、提案などについて理解しようとしている。	発①　「おたる・かわる・つながる」というテーマを基に,感性や想像力を働かせて,感じ取ったことや考えたことから主題を生成している。 発②　主題を効果的に表現するために表現形式の特性などを工夫して創造的な表現の構想を練っている。	創①　技法や材料、用具の特性を理解し、目的や意図に応じて、特性や効果を生かして表現している。 創②　表現したい意図を大切にして、より効果的な表現方法を選択･活用するなど創意工夫し、主題を追求して表現している。	鑑①　他のグループの提案のよさ、発想や意図, 表現の工夫などを感じ取り、作品に対する見方や感じ方、考えなどを持ち、理解している。

⑶指導と評価の計画（10 時間）

学習のねらい・学習活動	学習活動に即した評価規準				評価方法・評価資料 ※ここでは説明のため、吹き出しの中に解説を加えて記述している。
	関	発	創	鑑	
1　課題の把握と発想・構想①（１時間） ●課題について理解する。 ・過去のプレゼンテーションの様子の映像を鑑賞し、主題や意図、表現の工夫などについて、感想や意見を述べ合う。 **【ICT の活用:PC, プロジェクター】** ●共通テーマ「おたる・かわる・つながる」に沿って、主題を生成する(1)。 ・**ワークシート《(4)に掲載》**に沿って、まず自分を取り巻く状況などから個人の考えをまとめて記入する。	関①	発①			〈美術への関心・意欲・態度〉 関① ・表現することに関心を持ち、主体的に表現をしていこうとする意欲や態度を見取るとともに、題材に関心が持てなかったり、発想が広げられない生徒を把握することに重点を置き、それらの生徒の関心や意欲が高まるように指導する。【意見を述べ合う様子、ワークシート】 〈発想や構想の能力〉 発① ・主題を生み出しているかを評価するとともに、ここで主題が生成できているかどうかはその後の制作に重要な影響を与えるので特に主題が生成できていない生徒には手立てを講じる。【ワークシート】
2　発想・構想②（３時間） ●共通テーマに沿って、主題を生成する(2)。 ・着想した分野ごとにグループを作り、意見を交換する。 ・グループを確定し、共同で主題を生成する。 ・課題や問題点及びその解決策について、話し合いを行う。 ●主題を基に共同で構想を練る。 ・主題を基に、アイディアスケッチなどにより、協力しながら工夫して構想をまとめる。 ・プレゼンテーションに向けた具体的な内容の検討についても、話し合いを進めていく。	関①	発②			〈美術への関心・意欲・態度〉 関① ・グループによる話し合いの場面において、主体的に話し合いを進めていこうとする姿勢などを評価するとともに、自分の意見をうまく発言することができないなど、討論に積極的に参加できていない生徒を把握し、それらの生徒の関心や意欲が高まるように指導する。【話し合う様子、ワークシート】 〈発想や構想の能力〉 発② ・構想の後半では，ある程度話し合いが進んだ段階で、主題を効果的に表現するために表現形式の特性を生かし、工夫して創造的な表現の構想を練っているかを見取る。【話し合う様子、アイディアスケッチ】
3　制作（５時間） ●構想を基に、表現意図に合う表現方法を工夫する。 ・意図に応じた材料や用具を吟味して使い、パネルを制作する。 ●主題を追求し、表現を深める。 ・主題を追求し、表現方法を工夫しながら制作をする。 ・より効果的な発表の仕方などを検討し、練習などを行う。	関②	発②	創① 創②		〈美術への関心・意欲・態度〉 関② ・表現の目的や意図に応じて、材料や用具の特性や効果を生かそうとしたり、より効果的な表現方法を工夫しながら主題を追求して表現しようとしているかを見取る。【制作の様子など】 〈創造的な技能〉 創① 創② ・創①では、表現の目的や意図に応じて、描画材、技法などを工夫して、表現しているかどうかを見取り、表現方法を工夫できていない生徒には指導を行う。 ・創②では，創意工夫し，主題を追求して表現しているかどうかを見取り、完成に近づいた段階で評価を確定していく。【制作途中のパネルなど】
4　発表及び鑑賞（１時間） ●互いのグループの発表を鑑賞し、主題，意図、創造的な表現の工夫などを感じ取り、理解する。 ・グループごとに、自分たちが問題点とした理由や改善策を、制作したパネルを使用して発表する。 ・相互に鑑賞し、批評し合う。 ・他のグループの発表について、そのよさや完成度などについて、ワークシートに示された観点に沿って採点を行う。	関③			鑑①	〈美術への関心・意欲・態度〉 関③ ・鑑賞への関心を持っているかどうかを鑑賞の活動やグループでの活動の様子から見取り、鑑賞への意欲が高まらない生徒を指導する。【鑑賞の様子やグループ活動の様子】 〈鑑賞の能力〉 鑑① ・他のグループの発表について、根拠に基づいて自分の意見を述べるなどして、発想や意図、造形的なよさや表現や発表の工夫などを感じ取っているかどうかを見取る。【ワークシート、発言内容など】
〈授業が終了後〉 【アイディアスケッチ等の評価】 【完成したパネル等の評価】 【ワークシート等の評価】 【プレゼンテーションの評価】		発②	創① 創②	鑑①	発② 創① 創②の評価では、プレゼンテーションの様子から再度評価し、授業内での評価を確認し、必要に応じて評価を修正する。主題の意図や構想の工夫をワークシートなどと併せて見取るなどの工夫も大切である。

ワークシート（発想・構想①で使用）とプレゼンテーションの様子



美術Ⅱ　「プロジェクト・デザイニング」（A表現2デザイン B鑑賞）
ワークシート(1)「発想・構想」
２年＿○＿組＿○＿番
氏名＿○＿○＿○＿○＿

1　今回のメインテーマについて

おたる・かわる・つながる

※今回は、『メインテーマから導き出される「サブテーマ」を独自に設定し、①その問題点や課題について発見し、②その解決策について考察した後、③発表（プレゼンテーション）する。』という一連の作業をグループによる共同作業で行ってもらいます。このことを踏まえた上で、以下の項目について記入してください。

生徒が「発想したこと・構想したこと」を、ワークシートを通して知ることができる。

2　発想・構想

段階を追って考察を深めていくように、設問されている。

(1)あなたは、メインテーマから、まずどのようなことをイメージするか記入してください。

・港　・札幌に近い　・札幌のベッドタウン

(2)そのイメージから連想される「サブテーマ」を自分なりに考えて記入してください。

小樽～札幌間は、通勤、通学で移動する人が多い

(3)あなたが考える、そのサブテーマに関連する「課題や問題点」をあげてください。

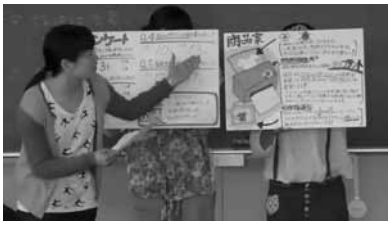
交通機関が限られている　・事故などで遅延や不通になりやすい

(4)あなたが考える、「課題や問題点」は、次のどの分野にあてはまりますか？あてはまると思うものについて、いくつでもいいので○でかこんでください。

社会　自然　季節　歴史　地理　人々　生活　衣　食　住　街　流通　購買
経済　観光　交通　産業　余暇　医療　福祉　文化　芸術　その他（　　）

※このワークシートをもとに、次回の授業でグループ編成を行います。

①発想したり構想したことを整理することができる。
②具体的な「キーワード」を示すことで、気づかなかった視点が生まれ、発想が広がりやすくなる。
③次回の授業でのグループ分けに活用できる。



［書道］

(1)　書道における学習指導上の課題

書道においては、生徒の個性を生かした創造的な活動を行うことが課題である。そのため、授業においては、表現されたものの特性、表現効果、価値などを、美に対する感受性や知的理解の面から味わうといった鑑賞の指導を重視し、生徒一人一人に自由で楽しい鑑賞を体験させることが必要である。

表現と鑑賞は相互に有効に作用するものであるが、これまで表現の活動に重点が置かれがちな傾向にあるので、表現と鑑賞を有機的に関連付けて指導することが大切である。

(2)　課題解決に向けた効果的な評価の在り方

前述の課題を解決するには、表現領域では「書表現の構想と工夫」、鑑賞領域では「鑑賞の能力」の評価の観点における評価規準を明確に示し、様々な作品に対する第一印象による把握（直感的鑑賞）を大切にし、それを手がかりとして作品理解を分析的に把握し深めていくよう（分析的鑑賞）に指導し、評価することが大切である。また、他の生徒の見方や鑑賞を通した感想を聞くなどして、自然とその書のよさや美しさが分かるよ

うな指導上の工夫や改善が必要である。

また、拓本や複製、ＩＣＴ機器などを活用することや、ワークシート等を用いながら生徒自らが主体的に相互批評するなどの方法が考えられる。その際、教師側から観念的な評価を一方的に押し付けないよう留意し、鑑賞力を高め、書が現代社会にどのような役割を果たしているのかを考え、幅広い書の役割について総合的に理解させることが大切である。

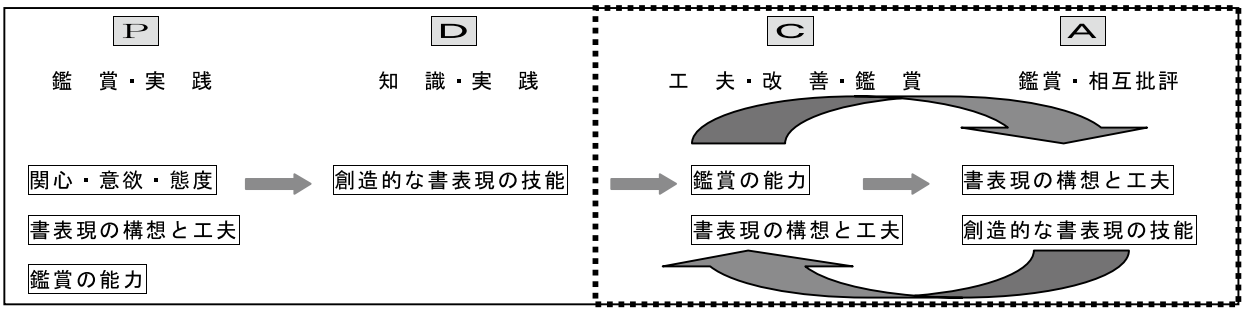
【鑑賞の指導おける主な課題と改善に向けた効果的な指導計画の視点】

鑑賞の指導における課題	改善に向けた効果的な指導計画の視点
A　鑑賞の学習時間が十分に確保されていない。	年間指導計画や各単元の指導計画に、鑑賞の時間を段階的に取り入れることで、鑑賞に対する感受の変化を確認できる。 また、各単元において「直観的鑑賞」から「分析的鑑賞」までを行う学習を実践し、作品全体の捉え方や用具用材等について検証させる学習を行うことで、思考力を一層向上させる効果が生まれる。
B　単発のグループ活動や相互批評のみで、鑑賞の学習が完結する傾向が強い。	三分野（漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書）に平均した鑑賞の指導計画を立てることで、総合的に鑑賞の理解が深められる効果が生まれる。 また、生徒がどの古典に関心を寄せ、表現の基礎になっているかを把握することができる。
C　表現と鑑賞との関連を図りながら、書がもたらす日常生活や社会との関連、あるいは、書が果たす役割について考える場面が少ない。	美術館を活用（学芸員との連携）して鑑賞を行ったり、地域にある書に関する文化的財産を見学したりする授業を実践することで、書と日常との関わりや、日本・中国等における伝統文化を尊重する態度の形成につなげることができる。 また、教科書では味わうことができない本質的な価値を見いだすことが期待できる。

【鑑賞の評価における主な課題と改善に向けた効果的な評価方法の視点】

鑑賞の評価における課題	改善に向けた効果的な評価方法の視点
D　生徒が意欲的に発表ししている場面（関心・意欲・態度）のみを評価している。	「書表現の構想と工夫」及び「鑑賞の能力」の観点では、生徒の「感受の度合い」や「変容」について評価することで、鑑賞の深まりを確認することができる。
E　生徒の感想やワークシートへの記入量のみを評価している。	作品に対して、直感的に感じたことや分析的に把握した内容を記入できるワークシートなどを活用することで、生徒の実現状況や変容を的確に把握することができるとともに、実現状況に応じて授業内容の工夫・改善に生かすことができる。

また、学習指導においては、ＰＤＣＡサイクルを活用した学習計画が求められていることから、単元の総括等において、生徒の実現状況がどの程度かを認識し、再度検証した上で授業改善を行うことも重要である。



(3) 効果的な実践事例

次に、「Ｂ鑑賞」において、二つの作品について「直感的鑑賞」（第一印象）と「分析的鑑賞」の結果をまとめ、比較することで、生徒の個性を生かした創造的な活動を促すをワークシートの活用事例を示す。

ワークシートの活用事例：書道Ⅰ【九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑】

『九成宮醴泉銘と孔子廟堂碑』との出会い　ワークシート

クラス（　　）氏名（　　）

① 双方の古典を鑑賞し、最初に感じたことを自由に書いてみよう。

【九成宮醴泉銘（第１印象）】

鋭い感じ
やわらかい感じ
スタイルが良い感じ

第一印象で感じたことが、今後分析的鑑賞で、どのように検証し改善・変容がなされたかを図ることが大事である。
【生徒の感じたことを尊重】

【孔子廟堂碑（第１印象）】

のんびりした感じ
固い感じがする
やさしい感じ

試書

イメージしたものと違っていた。

試書を通して、自己分析した感想を書いてみよう。

試書

イメージしたものと近い。

② 双方の古典について、分析（墨量・線の太さ・書くスピード・構成等）し、再度まとめ試書をしてみよう。

【九成宮醴泉銘（分析的鑑賞）】

墨の量：　少　　線の太さ：　細い
書くスピード：　速い

【孔子廟堂碑（分析的鑑賞）】

墨の量：　少　　線の太さ：　細い
書くスピード：　遅い

ここで、一度教師側から知識を与え、書道用語・歴史的背景・文字の特徴等について指導を入れる。

③ 双方の古典の特徴を踏まえ、臨書してみよう。

運筆の速度【やや早く】用筆法【露鋒】
墨量【やや少なめ】　結体【背勢】

臨書

運筆の速度【やや遅く】用筆法【露鋒】
墨量【やや多め】　結体【向勢】

書道専門用語

④ もう一度、双方の古典の特徴を踏まえ、臨書してみよう。

【検証・自己評価】を行い総括する。改善が必要な場合は、再度工夫改善に努める。